

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702677		
法人名	有限会社 福の里		
事業所名	福の里グループホーム結		
所在地	福岡県北九州市八幡西区楠橋上方二丁目18-37		
自己評価作成日	平成23年5月11日	ユニット名	結 1

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年5月30日	評価結果確定日	平成23年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の残存機能を大切に、日常生活においては出来る事はして頂き、利用者様の誕生日には皆で手作りケーキを作成したり、季節感を味わって頂ける様にぶどう狩り等に出掛けたりしながら安全に安心して暮らして頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月家族に郵送している「福の里だより」は、全員同じ内容の新聞形式ではなく、職員担当者が利用者の受診状況や生活状況、行事や外出したこと等を個別に記載しており、家族にとって分かりやすく安心できる便りとなっている。また、報告は「福の里だより」に限らず、病状や生活状況の変化時等にも、きめ細かく家族と連絡・対応しており、家族との情報の共有が行き届いている。ホームではスイカ割りや花火大会、葡萄やみかん狩りといった季節を味わうことのできる行事が計画、実行されており、近所の方にスイカを配ったり、幼稚園にお裾分けしたりしている。ホーム内には幼稚園児からお礼の手紙が掲示されており、交流の良さが見受けられた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者独自の「自由な生活の支援」を中心とした理念を朝礼、終礼時等常に共有し、日々実践出来る様努めている。	法人の理念の他、2年前に職員でつくりあげた介護理念を掲げている。朝礼や終礼時には理念にからめた話が行なわれ、常に意識し職員間で共有し実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のゴミ出しの際の挨拶や清掃活動また、自治会に参加しながら地域交流を深めている。	ゴミ出しや散歩の時に挨拶を交わし、回覧板を回したり、隣組の会合に参加したりし、徐々に顔を覚えられ、ホームへの理解を得てきた所である。今年は初めて地域の方から花見に誘われるようになり、交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の幼稚園児来訪時や敬老会等の行事に参加して頂く事で交流を持ちながら認知症への理解を持って頂く。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回実施し、そこで出された意見をもとにさらなるサービス向上が図れる様努めている。	2ヵ月に1回定期的に開催されている。地域代表者の欠席が多く、職員と包括支援センター職員だけの会議が多々見受けられる。次回より家族代表者が参加する予定である。	地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。近隣住民も含めた地域の方の参加を募り、会議の目的意識を持って開催し、有意義な場となることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時連絡を取り合いながら情報交換をし、実情を伝えながら協力しあえる関係を築ける様努めている。	保護課と介護保険課に報告・相談・連絡し、情報共有や協力を得られている。グループホーム協議会に加入しており、年1回は市を交えた意見交換会が行なわれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で資料などを通じ学ぶ機会を持ち、どのような行為が拘束にあたるか等を常に確認し、理解を深める様努めている。	ホームとして「身体拘束をしない」方針があり、勉強会や事例検討会を実施し、常に意識してケアに取り組んでいる。困難事例やケアに疑問を感じた際には、行政に相談して身体拘束になるのか検証してもらい、助言を受けながらケアに繋げている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で資料などを通じ学ぶ機会を持ち、職員間で情報を共有し、見過ごす事のない様努めている。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等で資料等を通じ、学ぶ機会を持ち、また、研修等に参加している。	行政主催の研修に管理者が参加し、毎週の会議の中で伝達に努めている。他の職員の理解は充分ではなく、必要な時に説明や支援が出来る体制作りを課題として捉えている。現在、成年後見制度を活用している方がいる。	現在、制度を活用している方もおり、その支援の過程を共有し、また継続的な研修に取り組むことで、職員の理解を深めて欲しい。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章で示した上で不安、疑問点について十分な説明、話し合いを行いながら理解を図っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にコミュニケーションをとりながら情報を交換し、また、家族会においている意見が聞ける様努めている。	年2回(5月・11月)に家族会を開催している。その中で家族より重度化や緊急時の対応、緊急搬送先や連絡先などが知りたいとの意見があり、家族の不安軽減に努めながら、詳しく説明・話し合いが行なわれている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週の会議や勉強会において職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎週木曜日の会議や月1回の法人全体会議時に職員からの意見を聞く機会を設けている。また毎日の朝礼や終礼時等に意見を言う機会もあり、話しやすい環境を整えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、コミュニケーションをとりながらまた、個別に対話する時間を設ける等して努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の面接の際は、当事業所においてのチームケア、協調性の大切さと重点とした話をし、性別、年齢等は採用の判断基準とはなっていない。	現在20歳から70歳の職員が在籍しており、定年制は設けていない。「高齢者が好き・協調性・思い」を重視し面接、採用している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議等で取り上げ話し合う機会を設けている。	年1回は人権についての研修を実施している。9月には認知症啓発月間記念事業としてグループホーム事業者協議会が集まり、管理者は駅周辺で啓発活動を行なっている。	

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内において勉強会や施設外にての研修等に参加する機会を設ける等して取り組んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、研修等の参加し、同業者との交流情報交換等しながら努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の不安、不穏を傾聴し、受け入れながら一部でも不安要素を取り除ける様努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学に来られた際や面談を通じ、御家族の不安や要望を伺いながら努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望であっても御本人の体調や状況を考慮し、デイサービスの利用や他の施設の利用を勧める事もある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対話の中で御本人の昔話や体験談等を通じ、教えて頂く事や共感する場面もあり、また、お茶碗拭きや洗濯物たたみ等を手伝って頂いた際には感謝の気持ちを言葉で伝えている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人の近況を伝え、情報を共有し、また、行事等に参加して頂き、御一緒の時間を過ごして頂く。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞い等家族だけでなく、友人・知人の方へ出したり、また、返事が届く事や面会に来られる事もあり、喜ばれている。	友人、知人が面会に訪れ、懐かしい話や昔の話を持ちかけて頂いている。家族の協力のもと、利用者の実家に行ったり、行きつけの美容室に行ったりして、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	レクリエーションの中で共通の話題を対話したり行事 (誕生日会等)の中で一つの物を作り上げる時間を設けたり している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居した利用者に会いに行ったり、入院 されている方を見舞ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の希望、意向を聞き取り、それをふまえて 定期的なケアプランの見直しながら努めている。	1対1になる場面を大切にしている。寄り添いながら、 ゆっくりと話ができる環境を大切にし意向の把握に 努めている。また、無理強いはいはしないよう心掛 けている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や御本人や御家族との対話の中で コミュニケーションをとりながら把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	日々、利用者様の状態を観察し、職員間で情報を 交換し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	話し合いを重ねながら常に現状に即したプランを 作成し、場合によっては見直しを検討している。	3ヵ月毎にモニタリングを実施し、プランの見直し を行なっている。見直し時は担当者会議を開催し、 職員の意見を反映し作成している。アセスメント から導き出されたニーズとは言い難く、目標が 抽象的である。	情報収集と分析力を高め、アセスメントから導 き出された課題に対し、具体的な目標を掲げ、 達成に向けての支援へと繋がっていくことを 期待します。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過や排泄チェック表等を記録すること により、朝礼、終礼時に情報を共有し、気 付いた事を確認しながら見直しに活かして いる。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様お一人お一人の状態、状況に応じてグループホームだけではなく、ショートステイ・デイサービスの利用に繋がる様取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等に参加する機会を設けたり、日々の暮らしの中では草取りをして頂く事等で役割りを持って頂き、地域との交流を図る。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様お一人お一人のかかりつけ医を持ち、いつでも適切な医療を受けられる様支援している。	入居時に受診支援についての説明を行ない、元々のかかりつけ医か、提携医かを選んで頂いている。職員による受診支援が行なわれ、家族には電話やお便りで報告をしている。今年の6月からは提携医による往診が始まる予定である。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に適切な受診や看護を受けられる様、日々の利用者様の状態、少しの体調変化等伝えられる様努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医または緊急時の対応の病院との連携を取りながら話し合いを通じ情報交換を図りながら関係づくりに努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所において出来る事出来ない事を明確にしなが話し合いを重ね、御本人、家族と方針を共有し、支援に取り組んでいる。	「医療連携体制に関する覚書及び同意書」を作成しており、入居時に説明・同意を頂き、重度化した場合等に再度意向の確認をしている。家族の希望に添えるように対応したいと考えている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにのっとり、会議等で手当ての方法や対応の仕方を定期的に訓練を重ねる様努めている。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員各自の役割を確認しながら定期的に避難訓練を行い、地域の方々とも連携、協力出来る様努めている。	年2回、消防署立ち会いのもと、通報・消火・避難訓練を実施しており、次回の訓練より地域住民の参加が決まっている。	夜間想定を踏まえた避難訓練の実施や、備蓄品の整備についての取り組みにも期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の意を持って、強い口調や命令口調にならない様な声掛け心掛けています。	管理者は職員の言葉使いが悪い時は、その場で注意し「尊重」を忘れないよう意識付けを行なっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「 」と「 」どちらが好きですか？等の問い掛けをしたり、対話の中で御本人の希望を見つける等して支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの御本人の生活リズム等をふまえ希望を伺いながら、一人一人のペースを大切に出来る様支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常において整容はもちろんだが特に外出時には本人の希望する衣服を着て頂いている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の一つとして食事作りやおやつ作りなどを職員と一緒にしている。その際には利用者様の希望を少しずつ取り入れている。また、食後にテーブル拭き等を手伝って頂いている。	ホームの厨房には専属の調理員がおり、一緒に調理することはない。誕生日会や行事時はケーキのデコレーションやおやつ作りを一緒にしている。要望の多い「刺身」を食べに定食屋に行くこともあり、外食は楽しみのひとつとなっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表を用いて個人の一日の摂取量が分かる様に記入している。一人一人の状態に応じた食事形態を提供し、食事や水分が確保出来る様に支援している。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回毎食後に一人一人の状態に応じた口腔ケアを実施している。また、つきに3回のポリドントを施行し、技師の清潔保持を保っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人一人の排泄パターンを把握。また失禁を防ぐように定期的な声かけを行っている。声掛けの際には個人に合わせた言葉掛けや周りに気づかった声掛けを注意している。	排泄パターンを把握しており個別対応している。訴えがなくても、時間の間隔としぐさや表情で感知しトイレ誘導している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便の状態、排便のペースを把握し、服薬や腹部マッサージ等を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回入浴出来るように支援している。また、本人の希望があれば、その日にでも入浴出来る様に努めている。季節に応じ、菖蒲湯や柚子湯など楽しめる様に工夫している。	1日おきに入浴としているが、希望があれば毎日の入浴も対応可能である。失禁時等はその都度シャワー浴するなど柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理には眠ってもらわず本人様より「休もう」などの言葉が出るまで他利用者さん、職員と一緒に過ごしている。一人一人のパターンや状態に合わせて午後から臥床時間をとっていただいている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬マニュアル、服薬マニュアルを作成し服薬管理を行っている。看護師とも情報を共有し確認に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で趣味や職歴、嗜好品等を聞き出し、ケアの中に取り入れられる様に工夫し支援している。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い時等散歩の声掛けや本人より希望があれば出来るだけ対応出来るように支援している。また、行事の中での外出の際には家族にも声を掛け、一緒に出掛けられる様に支援している。</p>	<p>天気がいい日は散歩に出かけている。行事として集団による外出は月2回位あり、希望があればその都度、個別対応で外出している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>以前「泥棒がある」と不穏訴えあった為、お金は所持していない。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎年家族や友人に年賀状を送ったり、手紙も個人の意思でやりとりされている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり行事のポスターや写真などを飾る様にしている。</p>	<p>数多くの天窗があり、明るい日差しが入り込んでいる。居間には9人が座れるソファが置いてあり、テレビを見たり、お話をしたりと自由にくつろげる空間がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂や和室にて思い思いに過ごせる様に心がけている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を持ち込んで頂いたりしている。居室には利用者が使用していた写真や布団など持ち込まれ安心して過ごせるようにしている。中には写真や仏壇を持って来られている方もいる。</p>	<p>居室には仏壇やソファ、写真、ぬいぐるみ等が置かれ、独自の空間が作られている。窓にはカーテンではなく障子があり、和の雰囲気や落ち着いた空間となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーにして段差をなくしたり、手すりを設置して安全に過ごして頂けるようにしている。</p>		